

石 南國・早瀬保子編

『アジアの人口問題——21世紀への
展望と戦略——』

大明堂 2000年 iv + 234ページ

おおとも あつし
大友 篤

本書は、アジア諸国の人口の現状、とくに人口学でいう「人口転換」（高出生力・高死亡率の状態から低出生力・低死亡率の状態への移行）に焦点をあて、編者を含む9名の人口学の研究者が分担執筆したもので、以下の9章から成っている。

- 第1章 経済開発と人口変動 (石南國)
- 第2章 出生率低下とその要因 (早瀬保子)
- 第3章 死亡率低下とその要因 (和田光平)
- 第4章 高齢化と政策的対応 (嵯峨座晴夫)
- 第5章 女性の地位とその変容 (西川由比子)
- 第6章 都市化と労働移動 (渡辺真知子)
- 第7章 国際労働力移動と労働市場政策 (吉田良生)
- 第8章 経済開発と環境問題 (大森正博)
- 第9章 人口と経済——その動向と将来展望—— (大淵寛)

第1章では、本書の序章という意味合いの下に、アジア諸国の人口動態が経済の雁行形態的發展にもなって変動していると、その状況の説明がなされている。

第2章では、アジア諸国の出生力の水準、動向とそれらの国別格差が紹介され、出生力の低下の要因として、マイクロデータを用いた多変量解析の結果を援用して、初婚年齢、乳幼児死亡率、女性の教育水準、就業などが指摘されている。

第3章では、アジア諸国の死亡率の水準、動向とそれらの国別格差が紹介され、死亡率の低下の近接要因や社会経済要因の統計的分析が行われ、死亡率の水準には国間格差があり、生活水準の上昇や医療環境の整備が死亡率低下に寄与した状況が明らかに

されている。

第4章では、国連の将来人口推計データを用い、アジア諸国における人口高齢化の現状と将来が紹介され、高齢化問題の所在と政策的対応、高齢化対策の課題などが説明されている。

第5章では、女性の地位（教育程度、経済的自立など）が人口転換に及ぼす重要性について、UNDPのジェンダー開発指数を用いた検証が行われている。

第6章では、アジアにおける都市化とその動向、首位都市人口の動向、都市・農村間の移動パターンの紹介とともに、都市化と工業化との関係の分析がなされ、アジア諸国における都市化の多様性が指摘されている。

第7章では、1980年代以降におけるアジア諸国間の経済格差の拡大化傾向が示され、貿易や直接投資のグローバル化によるアジアの国際労働力移動の方向転換が明らかにされ、その受入れ国と送出国における労働市場政策が論じられている。

第8章では、東アジアを中心とする経済開発の現状、その環境に対する影響、および環境問題に対する政策的対応などが紹介されている。

第9章では、本書の総括を含めて、アジア諸国の人口と経済の動向の鳥瞰が行われ、アジアにも例外なしに人口転換が起こっていることが指摘され、アジアの長期的経済成長の将来展望が行われている。

多くの章において、アジアとくに東アジアや東南アジアにおける「人口転換」にともなう人口学的諸事象の変動の状況が説明されている。それが具体的にどのような人口問題を引き起こしているのかはかならずしも明確ではなく、また、西南アジアや中央アジアの人口動向に関する記述は不十分であるが、1980年代から90年代における東アジアや東南アジアの人口の動向を広範な視点から知るには、格好の書である。

(日本女子大学人間社会学部教授)